

高退協 ニュース

高退協事務局

1981. 7.

No. 10

暑中お見舞い
高知県退協事務局
高知県退協結成される
国際障害者年と私たち
機関誌第二号への誘い
高知医療生協に加入しよう

暑中お見舞い 申しあげます

元気で快適な夏のご生活をお過ごしください。暑中お見舞い申し上げます。暑中お見舞い申し上げます。暑中お見舞い申し上げます。

高知県退協 事務局

高知県退協 結成される

結成される

あなたもぜひ
仲間を輪に入れよう！
高知県退協事務局長
依間 啓

高知県退協は、六月一日、高知会館で、県下八支部代表員七名の出席を得て結成されました。結成大会は、議長沢木水(高知)副議長(香美)副議長(高知)理事(高知)出席し、議事に入り、

結成準備会代表の東元先生は、開会挨拶で「新しい輪が見えて力強い。我々は今まで高知県の教育に貢献してきた。殊に勤労闘争では、勤労者は戦争への一里塚だとして闘ったが、現在まさにその時になっている。今後も広く団結して民主教育を守ろう」と訴えました。

このあと、全国退協協勝川氏・高知退協田代・退協教石川氏・県教組西森氏のメッセージをうけ、懇話にはいりました。

- ・結成大会は、和やかな中に熱気と希望にみちたものとなり、全日程を終了しました。
- ・新役員は次のとおりです。
- ・会長 藤野義直(香川)
- ・副会長 西内満夫(高知)
- ・常任委員 地引三男(香美・高知)
- ・事務局長 依間 啓(県教組)
- ・監査 近藤利伸(香川・高知)

国際障害者年と 私たち

私たち

江口寿夫さん(子鹿園々長) 国沢秀雄さん(評議議長) 竹内衛三さん(全職研支部長) 高橋忠栄さん(障高連会長) 土田嘉平さん(障弁士会々長) 藤平栄さん(県社協会長) 山岡光一さん(高知大学長) のよびかけで、去る六

月七日に、高知県国際障害者年をすすめる会を結成しました。結成集会には、障害者はもとより、父母・医師・学校・施設関係者・労働・民主団体・一般市民の方々一八〇名が参加し、本ごやかでしかも盛大な会が行なわれました。

この会の発足は、世界人類宣言や憲法で保障されたすべての人びとの人権と基本的自由並びに平和人間の尊重と価値及び社会正義の諸原則に対する信念を再確認し、それを実現する実践の出発点にもなることでしょう。

この「国際障害者年」は、国連総会が一九七六年十二月に全会一致で決議し、世界中の国に呼びかけたものです。日本では、内閣府庶長を本部長とする推進本部を置き、高知県では、和食調子本部長として推進本部を設置しました。それと同時に国や各県でも民間レベルの推進組織を結成しています。私たちの「すすめる会」もその一つとして結成したのです。

この国際障害者年の目的は、「障害者がその生きている社会に於て、社会生活と社会の発展における『完全参加』と、その社会の同一・今の市民と同じ生活条件を保障する」という意味の『平等』の実現を目指すことです。

世界の障害者は四億五千万人、日本には約四〇〇万人の障害者がいるといわれています。高知県でも四万人近い人びとが何らかの障害を受けています。これらの大部分は戦争や環境破壊・薬害によって障害を受けられたのです。

国連決議は、これらの障害者に対する身体的・精神的援助、仕事の確保と支度、公共の建物や交通機関の改善、政治的・経済的・社会的諸活動の分野に参加する権利の保障を妨ぐことを呼びかけています。今は、この「国際障害者年」を通して、障害を受けた人もそうでない人もお互いが理解し合い、ささやかでもいいお互いの心使いや思いやりを持って、みんなの生命とくらしを大事にし、しあわせで明るい生活を築くために頑張らねばなりません。

高知退協事務局 平野日出男

機関誌

「こうたいきょう」

第二号への誘い

昨年、創刊号を発行して、みな

さまのお手もとにかかとどけいいたしました。わりあい評判がよく、あつちからもつちからも、「ええものをつくりましたね、ぜひ一冊分けてください」と声がかかりました。

折角、創刊号を出したことでずから、第二号、第三号と続けていきたいと思えます。左記要領によって原稿を募集いたしますので、どうかよろしくお願ひいたします。創刊号で、名だたる各氏の力作もさることながら、「会員近況」と題して、みなさん多数に書いてもらったものが何より面白かった。編集の任にあたる私たちとして、「どうしたらより多くの人たちに参加し書いてもらえるか」に、その責めがあると思えます。今更も執拗にその責任を求めそうと思つていきますので、よろしくご協力下さい。

内容
詩・短歌・俳句・エッセイ
短編小説・その他なんでも
原稿用紙(四百字詰)十枚以内
締切 九月底
(十一月には発行したい)

「死生
高知市丸の内二丁目一ノ十
高知高教組内 高知退協事務局
機関誌編集委員 眞田昌俊

高知医療生協に 加入しよう

「高知医療生協のあゆみ」
高知医療生協は、昭和四一年、「健康と生活を守る民主的な医療機関を、わたしたち自身の手によって設立しよう」という趣旨で、県下によびかけられ、祖診療所を開設しました。

以来、健康とくらしを守る先頭にたち、台風災害の救援活動や、原爆被害者の健診、労災職業病や公害へのとりくみなど、働く人びとの立場に立った活動をすすめてきました。昭和五〇年には、城北診療所を開設しました。

高知医療生協は、この間、住民の健康を守る活動こそが、まず第一に必要であるという立場で、組合員の自主的保健予防活動を、積極的に推進・援助してきました。このため運動をさらに発展させるために、昭和五七年に病院をつくり、予防から治療・リハビリまで、一貫した医療が買けるよう、組合員と力を合わせ病院建設運動をすすめています。

あなたの手で――

わたしたちの病院建設は、十数億円の費用が必要で、運動者の病院として、できる限り低コスト事業にするためには、最低十億円(億数千円)の自己資金(出資金)をまかなうことが必要だと考えています。そのための資金は、組合員借入金・厚生年金事業団の還元給付でまかなうこととなります。

つきましては、多くの方々が医療生協に加入され、力いっぱい出資・借入金への応募をお願いします。

事務局だより

理事(高教組退出) 兼下芳文

◎「高知・空襲と戦いを記録する会」(会長杉本恒星)は、第三回高知空襲展を、七月二日・七月七日 高田大丸ビルコックホールにて、戦争を知らない子供たちのため、戦争と平和を考える資料展を行いました。

七月四日には、県民文化ホールで、高知空襲三六周年記念集会在りかられ、神島からはらばら「神島戦を考える会」代表、中山良彦氏の「神島戦の証言・準備で平和は守れるか」記念講演があり、参加者に深い感動をあえました。

戦争を知らない世代が国民の半数を占め、段々と戦争が風化して行く中で、私達は戦争の悲劇を空しく、平和の尊厳を、今こそ声を大にして語りつがねばなりません。高知退協も毎年種々のに参加し、活動しています。

◎「高退協ニューズ」九号で紹介した「いご」そのの種書「山本広吉先生が出版された好評です。読者ご希望の方は、高教組本部まで申込みして下さい。

一五〇〇円です。
◎高教組・夏季学習会日程はまる
一日時 八月二(一)一日
場所 土佐清水市 龍串
◎参加費
五〇〇〇円(懇親会を含む)
高教組の先生方と交流を兼ねよう。

◎会費納人のお願い
六月末現在で、一五四名中、約半数の会員が納入しています。郵便料金の中大を値上げ等で、財政的に苦しくなっています。今後の活動を積極的に進めていくために、未納の方はできるだけ早く送金下さるようお願いいたします。